

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 144-0041
 住 所 東京都大田区羽田空港3-2-8
 氏 名 株式会社ANAケータリングサービス
 代表取締役社長 川崎 三喜男 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社ANAケータリングサービス		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区殿町3-26-1 ANA川崎ケータリング棟		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	機内食製造、航空機への搭降載、機内用品の洗浄・管理業務		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		2,893 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成27年度 ～ 平成29年度 (報告年度 平成29年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当社の環境負荷低減の取組については、下記URLに掲載 http://www.anac.co.jp/ems/ems.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 6,036 t-CO ₂ (調) 5,979	(実) 5,866 t-CO ₂ (調) 5,810	(実) 5,773 t-CO ₂ (調) 5,719	(実) 5,604 t-CO ₂ (調) 5,551	(実) 6,941 t-CO ₂
削減率		(実) 2.8 % (調) 2.8	(実) 4.4 % (調) 4.3	(実) 7.2 % (調) 7.2	(実) -15.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産量		単位	t-CO ₂ /千食	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	1.415	1.351	1.147	1.033	1.045
削減率		4.5 %	18.9 %	27.0 %	26.1 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	厨房稼働時間の集約化(24→14時間稼働)、不要時の厨房熱機器電源OFF(省エネ活動)、庫内整理による大型冷凍室1箇所完全停止(5S活動)、大容量オープン1基を小容量の2基に更新し、調理量の変化に対応可能とした事、及び洗浄作業の慣熟に伴う効率向上等により、実排出量は2.8%削減し、原単位も基準年度比で4.5%削減できた。
第2年度	厨房系統空調機の一部にて風量制限及び、夜間風量削減の実施、ブラインチラー整備による効率の向上、大型倉庫の照明を水銀灯からLEDに更新した事により、実排出量は4.4%削減し、原単位も基準年度比で18.9%削減となった。
第3年度	これまで厨房稼働時間の集約化を進めてきたが、さらに日中間へ業務を集約したことで昼間の電力量は増加し夜間の電量は低下している。生産食数では前年比108%増加に対してのエネルギー使用量は比例して増加することなく、CO ₂ の排出量は前年比97%となっているため、実排出量は7.2%削減し、原単位も基準年度比で27.0%削減となった。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

2014年度比で26%(原単位ベース)を削減する目標に対し、第3年度は27.0%の削減となり目標を達成した。
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○IS014001の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行う。 ○管理標準に基づく運転・保守管理の徹底と、必要に応じ見直しを実施する。 ○エネルギー使用量を月次データを共有・分析して省エネに繋げる。 ○照度の管理、高効率照明器具の採用
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○IS014001の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行う。 目標値に対する進捗管理を月次で実施し、拡大運営委員会で報告した。 ○管理標準に基づく運転・保守管理の徹底と、必要に応じ見直しを実施する。 空調温度等を中心に、運転管理マニュアルに基づく調整を実施した。 ○エネルギー使用量月次データを共有・分析して省エネに繋げる。 エネルギー使用量分析データ等の説明により、現場の省エネ意識を向上する事が出来た。
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○IS014001の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行う。 目標値に対する進捗管理を月次で実施し、社内運営会議で報告した。 ○エネルギー使用量の月次データを共有・分析して省エネに繋げた。 第1年度に続き、エネルギー使用量分析、データ等の説明により自主的な節電行動が各所で現れ、省エネ意識について向上が見られた。 ○照度の管理、高効率照明器具の採用 大型倉庫の照明設備を水銀灯からLED照明へと更新を実施した。
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○IS014001の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行う。 目標値に対する進捗管理を月次で実施し、社内運営会議で報告した。 ○エネルギー使用量の月次データを外部機関へ共有・分析して省エネの今後のポテンシャルについて確認した。 ○排水処理設備の攪拌機稼働時間調整 流量調整槽攪拌機でのモーター稼働時間を調整し電力量削減に繋げた。
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	○社内で構築している環境マネジメントシステム(ISO14001認証)に基づき、環境負荷低減を目指す活動を継続。
第1年度	ISO活動における目標は、『エネルギー使用に係る原単位を0.1%以上改善する』として、関連する活動を実施した。
第2年度	残業削減による電力使用量の削減、エレベーターの利用において2UP3DOWNは階段を使用すること、終業時の電気消灯を呼びかけるなど節電に対する意識を高める活動を実施した。
第3年度	ISO活動における目標は、改めて1年度目に続き『エネルギー使用に係る原単位を0.1%以上改善する』として、関連する活動を実施した。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	5,355	t-CO ₂
(調)	5,280	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎区殿町3-26-1 ANA川崎ケータリング様	0997	すし・弁当・調理パン製造業	5,355 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--